

空の下 育った 良い米

村の面積のほとんどが山林である西米良において、
米作りはここで生きてきた人の営みの積み重ねによって
受け継がれてきたものと言えます。

標高およそ640メートルの山を切り拓き、
先代が作った田んぼを何代にもわたって守り続ける。

一筋縄ではいかない苦勞を乗り越え、
常に「より良い米を」という思いを形にするため、

研究と実践を重ね続ける人々が、この村にはいます。

そんな西米良の米は一粒一粒に

旨みと甘みがしっかりと凝縮された、

日本の宝とも言える食材。

今回はその作り手の思いに迫ります。

